**第５学年国語科学習指導案**

日　時：平成３１年２月２２日(金)５校時

児　童：港区立高輪台小学校　　第５学年２組　３５名

担　任：港区立高輪台小学校　　教　　諭　小林　遼平

指導者：武蔵野市立千川小学校　主任教諭　佐々木恵里

児　童：港区立高輪台小学校　　第５学年１組　３５名

担　任：港区立高輪台小学校　　主幹教諭　須田美和子

指導者：港区立高輪台小学校　　主幹教諭　須田美和子

**１　単元の目標**

　○　同じ読み方をする漢字について興味をもち、理解を深めて正しく使えるようにする。

**２　単元の評価規準と学習活動に即した具体的な評価規準**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | **ア 知識・技能** | **ウ 主体的に学習に取り組む態度** |
| **単**  **元**  **の**  **評**  **価**  **規**  **準** | 文や文章の中で漢字を適切に使い分ける必要性に気付き、それぞれの意味や使い分け方を理解して、正しく書いている。 | 漢字への興味を深め、自分から同訓異字語を集めたり、意味を調べたり、違いをまとめたりしている。 |
| **学**  **習**  **活**  **動**  **に**  **即**  **し**  **た**  **具**  **体**  **的**  **な**  **評**  **価**  **規**  **準** | ①同音異義語・同訓異字語がどのような特徴のある言葉なのかを理解し、漢字を使用する必要性に気付いている。  ②同訓異字語の意味や使い方、用例などを調べ、違いが分かるようにまとめている。  ③同訓異字語の意味の違いを理解し、説明の方法や内容を考えている。  ④同訓異字語・同音異義語の違いを知り、正しく書いている。 | ①同訓異字語を扱った問題に意欲的に取り組んだり、気が付いたことを発言したりしている。  ②同訓異字語をすすんで集めたり、それぞれの違いを調べてまとめたりしようとしている。  ③同訓異字語・同音異義語について知り、興味をもって、これから適切に使っていこうと意欲を高めている。 |

**「本単元で培うことができる思考力・判断力・表現力」は、以下の通りである。**

**・同訓異字語の字義を理解し、どのような情報があれば違いが明確になるかを考える力。**

**・発表の内容を聞いて、同訓異字語の使い分けにつながるかどうかを判断する力。**

**・分かりやすく伝えるために、調べた情報をどのように伝えるかを工夫し、発表する力。**

**単元の学習全体を通して、これらの力を培うことができるように学習活動を計画した。**

**３　単元構想**

　(1) 児童について（児童観）

　　 国語科の学習には多くの児童が前向きに取り組むことができるが、学習に対する苦手意識があり、なかなか前向きになれない児童も数名いる。

漢字は、ドリルの内容を基本として学習し、習得は主に家庭学習で行った。基本情報と数回の文字練習、言葉集め、例文作りを中心に取り組んだが、習得状況には大きな差が見られ、漢字を苦手と感じている児童も見られる。

　 教室の机には、一人一冊の国語辞典を常備しており、分からない漢字や言葉があったときには、すすんで国語辞典や漢字辞典を使って調べようとする児童が多い。国語科の学習に限らず、他教科でも新聞作りやポスター作りなどの場面で自分から国語辞典を使って調べる姿も見られる。

本単元の学習に取り組むにあたり、２学級６７名の児童に、国語科の学習と漢字や言葉に関する意識調査を行った。(※割合は、小数第一位で四捨五入した。)

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 好き | どちらかと  いえば好き | どちらかといえば好きではない | 好きではない |
| 国語の学習は好きですか。 | ３０名（４５％） | ３１名（４６％） | ５名（７％） | １名（１％） |
| 漢字の学習は好きですか。 | ３８名（５７％） | １９名（２８％） | ７名（１０％） | ３名（４％） |
| 漢字をすすんで使っていますか。 | はい　５８名（８７％） | | いいえ　９名（１３％） | |
| その理由を書きましょう。 | ＜はい＞  ・文字数が少なくてすむ。文章を短くできる。１７人（２５％）  ・平仮名ばかりだと読みにくい。漢字を使った方が読みやすい。  １７人（２５％）  ・漢字を使った方が、漢字を覚えられる。１４人（２１％）  ・大人になっても使うものだから。大人になったときに役立つ。４人（６％）  ・習っても使わなければ意味がない。習った漢字を使いたい。２人（３％）  ・意味が分かりやすくなる。平仮名では表せない意味を表せる。２人（３％）  ・熟語として覚えたい。１人（１％）  ＜いいえ＞  ・面倒くさい。平仮名の方が書きやすいし速い。３人（４％）  ・分からない漢字が多い。あまり漢字を覚えていない。３人（４％） | | | |
| 言葉の学習は好きですか。 | ３２名（４８％） | ２８名（４２％） | ６名（９％） | １名（１％） |
| 自分で言葉を調べたり、集めたりした経験はありますか。 | はい　５３名（７９％） | | いいえ　１４名（２１％） | |
| 「ある」と答えた人は、どのようなときに調べたり、集めたりしましたか。 | ・知りたい言葉や意味の分からない言葉があったとき。３５人（５２％）  ・授業で季節の言葉集めをしたとき。１３人（１９％）  ・別の表現や、よりよい表現がないか知りたいとき。３人（４％）  ・みんなに漢字の発表をするとき。２人（３％）  ・家の人に言葉の意味を聞いたら「自分で調べなさい」と言われたとき。  ２人（３％）  ・自分がその言葉を必要としたとき。１人（１％）  ・一つの言葉に関連する言葉がどれくらいあるか知りたいとき。人（１％） | | | |

話し合いでは、すすんで発言しようとする児童が多いが、なかなか自信がもてずに、学習を人任せにしてしまう児童も一定数いる。特に、自分の考えを相手に分かりやすく表現することが苦手な児童が多い。

ペアやグループでの関わり合いの場面では、積極的に意見を出し合うことは多くの児童ができるが、学習を人任せにして発言をしない児童もおり、数名が発言しないままに話し合いが進んでいく場面も見られる。司会の役割を行う児童は自然に発生するが、グループ全体に気を配り、発言を促すまでには至っていない。そこで、本単元では一人一人の課題について互いに意見を出し合う形を取り、自分が責任をもって話し合いに参加したり、相手の意見を引き出したりする必要のある場面を設定したい。

　(2) 学習材について（学習材観）

本単元では、同訓異字語を調べて意味を理解し、整理して説明する活動を行う。正しい表記の仕方を知って書けるようになることとともに、平仮名の表記では分からないものが漢字によって明確になること、漢字一文字で幅広い意味をもつ言葉であることを感じ取って、漢字を楽しみ、親しみをもつことをねらいとしている。そこで、主に熟語で表記され、意味も多様に広がらない同音異義語ではなく、同訓異字語を中心に扱うこととする。

同訓異字語とは、異なる漢字だが同じ訓を有するものの組み合わせである。学習指導要領第３節　第５学年及び第６学年の内容　１知識及び技能　（１）言葉の特徴や使い方に関する事項　〇漢字　エ　に、「（前略）漢字による熟語などの語句の使用が一層増加する時期である。したがって，文や文章を書く際には，例えば，「収める」，「納める」，「修める」，「治める」などの同音異義語に注意するなど，漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにすることが重要である。」とある。（学習指導要領には、「『収める』，『納める』，『修める』，『治める』などの同音異義語」という記載があるが、本単元では音読み、訓読みのものを分けて整理しているので、「同訓異字語」という用語を使用する。）字義がほぼ同じで、同様の使い方をするもの、字義が類似しているが、違いがあり、使い分けられるもの、字義がまるで異なるが、たまたま訓では同じ読みをするものと分けられる。この中でも、特に字義が類似するものは、児童にとっても使い分けが難しい。

文例や意味、熟語や対義語を示すことなど、複数の方法で同訓異字語を理解できるようにする。児童が同訓異字語やその使用例を探したり集めたりすることで、より生活の中で必要な知識として意識させていきたい。また、辞書としての意味に限らず、用例や熟語、どのような場面で使用されるか等、実際に生活場面で使用することを想定して学習させたい。

教科書で扱っている同訓異字語・同音異義語

　・あつい（熱い・暑い・厚い）・さす（差す・指す）・おう（負う・追う）・はかる（測る・計る・量る）

　・週間/週刊　・公園/公演　・先生/先制　・酸性/賛成　・先頭/銭湯　・暴風/防風　・功績/鉱石

・意思/医師　・照明/証明　・工場/向上

字義が類似する同訓異字語の例

・指す/差す/刺す　・暖かい/温かい　・暑い/熱い　・上る/登る　・映す/写す　・敗れる/破れる

・取る/採る/捕る　・降りる/下りる　・飛ぶ/跳ぶ　・鳴く/泣く　・周り/回り

・測る/計る/量る　・変える/代える　・生む/産む　・立つ/建つ　・分かれる/別れる

・絶つ/断つ/裁つ　・止める/留める　・直す/治す　・会う/合う　・務める/努める/勤める

・表す/現す/著す　・伸びる/延びる　・付く/着く　・始め/初め　・修める/治める/収める/納める

新学習指導要領との関連

「知識及び技能」(1)言葉の特徴や使い方に関する事項

エ　第５学年及び第６学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。

　(3) **単元について**（単元観）

同じ読み方をする漢字は、児童にとって間違えやすく、難しさを覚えるものである。漢字を学習した際にはそれぞれの意味の違いを学習しているが、実際に使用する際には記述できないことも多い。また、教師にとっても、比較させながら学習させた後に、いかに定着を狙うかが課題となる。そこで、楽しみながら同訓異字語に触れたり、調べたり、遊んだりすることを通して、漢字に対する関心を高めるとともに、意味の違いや使い方を知り、理解を深めてほしいと考え、本単元を設定した。

漢字の理解のために、同訓異字語とその意味や熟語、対義語、例文などを１枚の紙に整理したワークシート（以下「漢字シート」）に表していく。国語辞典や漢字辞典、同訓異字に関する書籍などを教室に設置することで、意味や用例の調査に活用できるだろう。調べたことをまとめたものは、友達への説明の方法としても使用する。まとめ方については、単元の初期に教師が例として示すとともに、児童の創意工夫も生かしていく。単元の最後には互いに同訓異字語を説明し合う活動を設定した。発表の前には、少人数グループでお互いにアドバイスを行うことで、調べたことを共有したり、文例を工夫したりできると考えた。

このような学習活動を通して、漢字のもつ意味の広がりや深まりを楽しみながら理解し、正しく使うことができる児童を育てたい。

**４　研究主題に迫るために**

　本単元における主体的な学び・対話的な学び・深い学びの姿を、以下のように考える。

【主体的な学び】…同訓異字語への興味・関心を高め、自分で考えながら学びを進めていく。

　　・生活場面の中から同訓異字語を取り上げて扱い、その存在に気付いて特徴を知り、楽しみながら取り組んでいる。

・どの同訓異字語について調べるのかを学級で共有しながら、身の回りや書籍、経験からすすんで集めている。

・自分が調べたい同訓異字語を選び、意味を調べたり、まとめたり、説明したりしている。

　【対話的な学び】…友達や周りの人々とのやり取りを通して、同訓異字語についての理解を深める。

　　・友達が集めてきた同訓異字語について交流し、どのような同訓異字語があるか、知識を広げている。

・小グループを作り、同訓異字語の説明が分かりやすいかどうか、内容が正しいかどうかについてアドバイスをし合い、互いの発表のよいところを見付けている。

　【深い学び】…同訓異字語の知識を深めるとともに、漢字についての見方を広げる。

　　・同訓異字語について、どのようなものがあるのかの知識を広げている。

　　・選んだ同訓異字語について、理解を深め、正しく使えるようになる。

　　・同じ漢字でも異なる意味をもっていたり、違う漢字でも同じ読み方をしたりする漢字の面白さに気付いている。

　　・これからも楽しみながら漢字を学ぼうとしている。

これらの実現のために、以下のような工夫をする。

(1) 単元づくりの工夫と柔軟な学習過程

　　【出合う】

　　　　導入では、同訓異字語によってすれ違いが起こる２つの短い劇を児童が演じる。生活の中で起こりそうな出来事を劇の場面に設定することで、これから学習することへの興味・関心を高めるとともに、その劇の内容から課題を見付けていく。

１つ目の劇では、ピザを題材に「あつい（熱い・厚い）」を扱う。手紙で伝える際に、平仮名で「あつい」と書いたことで意味のすれ違いが生まれてしまうという内容である。まず１つ目の劇で、同じ読み方でも異なる言葉の存在に気付けるようにする。

その上で、２つ目の劇で「うつす（写す・移す）」を扱う。植木鉢の花を「うつしてほしい」とメールで伝えたが、送信側と受信側で意味のすれ違いが生まれてしまうという内容である。ここでは途中で劇を止めて、この先どんな問題が起こるのかを、１つ目の劇を踏まえて児童に予想させる。そうすることで、本単元で学ぶべきことに児童自ら気付き、学習の見通しをもてるようにする。

劇を通して気付いたことを整理しながら、同訓異字語は前後の文脈によって区別できること、熟語や対義語などでも意味の違いを表せることを確認する。また、自分たちの生活の中にも同じ読み方をする漢字が数多くあることに目を向け、調べることへの意欲を高めていく。

　　　　その後、数多くある同訓異字語を区別して使えるようになることを目標に、集めたり調べたり発表したりする学習計画を児童とともに立てる。また、自分たちで学習を進める意識をもち、課題解決に向けて主体的に取り組めるように、単元名も児童とともに決めていく。

　　【親しむ】

　　　　親しむ段階では、二段階の調査活動を行う。まずは、どのような同訓異字語があるかを集めてくる。その際には、経験やインタビュー、本や辞書、インターネットからの収集を行う。同訓異字語の中には、意味が大きく異なる語句と、意味が似ていて紛らわしい語句があることを確認し、「自分たちが使い分けられるようになりたい漢字」という視点で集めていく。集まった中からも選択し、理解を深めたい字を担当するようにする。

　　　　次に、担当した同訓異字語について調査し、同訓異字語の使い分けができるように漢字シートに整理する。漢字シートは、表の枠があるものとないものの２種類を用意し、児童が自由に選択できるようにした。国語辞典、漢字辞典や関係図書を活用し、できるだけ複数の書籍を参考にするように声掛けを行う。

　　　　調査した同訓異字語については、まず、自分で例文を作る活動を取り入れる。このことにより、辞書的な意味を書き写すに留まらず、実際に使うことで意味の理解を深めることができるだろう。また、主語を自分や友達、家族に設定し、生活場面の中で使うことを想定することで、同訓異字語を生活の中に取り入れようという意欲を育てることができると考えた。

その後、学級内での発表会に向けて、「文作り」「クイズ」「なぞかけ」「劇」といった形を自由に選択し、より印象深く区別が付く方法を考える。この活動により、同訓異字語についての理解をより深めることができる。それぞれが考えた説明や発表内容については、３人グループで、同訓異字語の使い分けができるような内容になっているかどうか、互いにアドバイスし合ったり、発表の補助をし合ったりする。

単元の最後の発表会では、多くの同訓異字語の使い分けについて知るために、できるだけ多くの発表を聞けるようにする。また、発表の後に漢字シートを使った使い分け方の説明をすることで、より正しい知識を得られるようにする。

【生かす】

　　　　単元の終了後には、漢字シートを集めて辞典にし、個人が持つことで今後に活用できるようにする。また、第５時で互いの発表を聞き合った後、さらに「他の漢字についても知りたい」「もっと友達に知らせたい」という思いをもった児童が出てきた場合、朝の会などの時間を使って知らせ合う時間をとり、さらに理解を深められるようにする。児童が漢字を多面的に捉え、理解し、使用しようとする姿を期待する。また、一文字の中に意味を多く内包し、様々に使うことができる漢字を、語彙の一つとして楽しむことで、漢字への興味・関心を高めさせていきたい。

(2) 児童の学びの向上につながる評価と指導の一体化

　　【ワークシートによる評価】

　　　　漢字シートに漢字の理解を一枚にまとめることで、同訓異字語についての理解が正しくあるかを見て取れるようにする。また、グループ内で確認することで、相互に学びを評価し、アドバイスし合えるようにする。

　　【自己評価】

　　　　毎時間、記述による振り返りを行う。自分の学習に対する態度、知識や技能の習得についての感想等を書き記し、児童が自身の変容を意識できるようにする。

　　【座席表型評価補助簿】

　　　　座席表型評価補助簿を活用し、一人一人の学習状況を把握する。前時までの評価を記録し、予想される児童の姿や本時の支援計画を書き込み、指導に生かす。

**５　単元計画**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 過程 | 時 | 学習活動 | 指導事項 | 評価規準◆　評価方法★ |
| 出  合  う | １　本時（２組） | 同訓異字語に興味をもち、学習計画を立てる。  ○同訓異字を扱った劇を見る。  ○同訓異字語と同音異義語について知る。  ○学習の流れと単元名を考える。  ○同訓異字語の集め方を知る。  ○同訓異字語を集める。 | ・同じ読み方をしても異なる意味をもつ漢字があり、使い分ける必要性があることに気付くこと。 | ◆同訓異字語を扱った問題に意欲的に取り組んだり、気が付いたことを発言したりしている。主①  ★発言・学習感想  ◆同音異義語・同訓異字語がどのような特徴のある言葉なのかを理解し、漢字を使用する必要性に気付いている。知①  ★発言・学習感想 |
| 課外 | ○どのような同訓異字語があるかを集める。  ○集めた同訓異字語を教室に掲示し、共有する。 | | |
| 親  し  む | ２ | 調べる語を選び、調べる。  ○同訓異字語を使って、どのように発表ができるかを考える。  ○同訓異字語をより理解するために、何を調べるかを考える。  ○どの同訓異字語を学びたいかを学級で選ぶ。  ○調べたい同訓異字語を選ぶ。  ○選んだ言葉について調べ、漢字シートにまとめる。 | ・多くの同訓異字語があることに気付くこと。  ・同訓異字語には、意味が大きく異なるものと、意味が似通っているものがあることに気付くこと。  ・辞書を使用して、同訓異字語について調べること。  ・調べたことについて、説明の方法を考えること。 | ◆同訓異字語をすすんで集めたり、それぞれの違いを調べてまとめたりしようとしている。主②  ★同訓異字語集めカード・漢字シート・学習感想  ◆同訓異字語の意味や使い方、用例などを調べ、違いが分かるようにまとめている。知②  ★漢字シート |
| ３ | 発表の方法や内容を考える。  ○選んだ言葉の例文を作る。  ○発表の方法や内容を考える。 | ・同訓異字語の説明をどのような方法で、どの順序で行えばよいのかを考えること。 | ◆同訓異字語の意味の違いを理解し、説明の方法や内容を考えている。知③  ★行動観察・発表用紙 |
| ４　本時（１組） | 発表の方法や内容について、互いにアドバイスし合う。  ○発表の準備をする。  ○グループでアドバイスをし合う。  ○自分の発表を見直す。 | ・互いに発表練習を聞き合い、よい点や改善点を伝え合うこと。 | ◆同訓異字語の意味の違いを理解し、説明の方法や内容を考えている。知③  ★行動観察・学習観察 |
| ５ | 発表を聞き合い、学習のまとめをする。  ○互いの発表を聞く。  ○同訓異字語をまとめた用紙を互いに見合う。  ○教科書を使い、同訓異字語・同音異義語について確認する。  ○単元の学習を振り返る。 | ・同訓異字語の使い方を知ること。  ・今後も漢字を使っていくときに意識することを考えること。 | ◆同訓異字語・同音異義語の違いを知り、正しく書いている。知④  ★クイズ等の解答・学習感想  ◆同訓異字語・同音異義語について知り、興味をもって、これから適切に使っていこうと意欲を高めている。主③  ★発言・学習感想 |
| 生  か  す | 単元後 | ○漢字の意味を捉えたり、場面に応じて使い分けたりしようとする。  ○漢字によって意味が伝わることに気付き、これから学ぶ漢字にも関心をもつ。 | | |

**６　本時の学習（１／５時間目）　５年２組**

(1) 本時のねらい

同音異義語・同訓異字語の特徴を理解し、漢字を使う必要性に気付く。

　(2) 本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学　習　活　動 | 指　導　事　項 | ◆評価　★評価方法　○指導上の留意点 |
| １　同訓異字語を扱った劇を見て、気付いたことを発表する。  　【劇その１】  「あつい（熱い・厚い）」  　【劇その２】  「うつす（移す・写す）」  ２　本時のめあてを確認し、同訓異字語と同音異義語について知る。  ３　学習計画と単元名を考える。  ①　同訓異字語を集める。  ②　漢字の意味や使い方を調べる。  ③　正しく使い分けるこつを見付ける。  ④　まとめの形式を考える。  ４　同訓異字語の集め方を知り、同訓異字語を集める。  ５　学習を振り返る。 | ・同じ読み方をしても異なる意味をもつ漢字があり、使い分ける必要性があることに気付くこと。  ・同訓異字語と同音異義語について理解すること。  同訓異字語について知り、学習計画を立てよう  ・言葉について理解するために、必要な手順を考え、今後の学習の見通しをもつこと。  ・国語辞典や漢字辞典を使った情報の集め方を知ること。  ○　概ね満足できる児童への手立て  正しく漢字を使い分けられるようになるために、何が分かればよいかを考えるよう促す。  ○　概ね満足できる状況を目指す児童への手立て  漢字の意味の違いや使い方に気付けるように、本時の劇や板書を振り返るよう声を掛ける。 | ○事前に劇の役を決めておき、児童が劇に参加することで、楽しみながら取り組めるようにする。  ○生活場面を劇にすることで、同訓異字語の存在に気付いて特徴を知り、興味・関心を高められるようにする。  ◆同訓異字語を扱った問題に意欲的に取り組んだり、気が付いたことを発言したりしている。主①  ★発言・学習感想  ○視覚的に分かりやすい掲示物を示して同音異義語・同訓異字語の定義を押さえ、例をいくつか挙げることで理解を深められるようにする。  ○どんなことをすれば使い分けられるようになるか、そのために必要なことから、学習計画を立てる。  ○個人で調べることができるように、辞典や関連図書を準備する。  ○調べた言葉を友達と共有し、もっと集めたいという思いをもてるようにする。  ◆同音異義語・同訓異字語がどのような特徴のある言葉なのかを理解し、漢字を使用する必要性に気付いている。知①  ★発言・学習感想 |

**６　本時の学習（４／５時間目） 　５年１組**

(1) 本時のねらい

発表の方法や内容について、アドバイスし合い、よりよくできるように考える。

　(2) 本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学　習　活　動 | 指　導　事　項 | ◆評価　★評価方法　○指導上の留意点 |
| １　学習計画・学習課題を確かめる。  ２　少人数グループで互いの説明方法を聞き合い、よりよくする方法を考えたり、発表の相談をしたりする。  ３　友達からのアドバイスを参考に、自分の発表を見直す。  ４　学習を振り返る。 | お互いにアドバイスし合い、同訓異字語の発表をよりよくしよう  ・使い分けが分かるかどうかを考えながら友達の説明を聞くこと。  ・どう説明すればよいかをアドバイスし合うこと。  ・友達が説明している同訓異字語について理解すること。  ・アドバイスを参考にして、自分のまとめや説明の仕方を考えること。  ○　概ね満足できる児童への手立て  友達の説明した同訓異字語を代わりに説明してみるよう促す。  ○　概ね満足できる状況を目指す児童への手立て  友達のアドバイスを参考に、説明の方法や内容を見直すようにさせる。 | 〇学習計画や今までの学習内容を掲示し、振り返ることができるようにする。  〇３人グループを基本として、意見を言いやすくする。  〇実際の発表に近付けて説明し、聞き手の立場からのアドバイスをもらうことができるようにする。  ○友達からアドバイスをもらいたいことをはっきりさせておく。  〇国語辞典等を活用し、互いの同訓異字語も理解してアドバイスできるようにする。  ○作成した漢字シートや例文も参考にしながら、使い分けが分かるかどうかという観点でアドバイスできるようにする。  〇最終の決定は自分がすることとし、相手を尊重したアドバイスの仕方をするように声をかける。  ◆同訓異字語の意味の違いを理解し、説明の方法や内容を考えている。知③  ★行動観察・発表用紙  〇学習計画を確認し、自分たちで学習を進めている思いをもてるようにする。  〇言葉に対する理解が深まったか、主体的に取り組み、互いの説明のよい点や改善点を言い合えたかという視点で自己評価を行わせる。 |

**７　参考資料・参考図書**

・「異字同訓」の漢字の使い分け例（報告）：文化審議会国語分科会

・小学生のまんがことばの使い分け辞典：学研教育出版

・楽しみながら国語力アップ　マンガ漢字・熟語の使い分け：ナツメ社

・あそんで身につく日本語表現力１：偕成社

・あそんで身につく日本語表現力３：偕成社

・絵で分かる「漢字使い分け」：ＰＨＰ研究所

・おもしろ漢字塾４：金の星社

・カケルがかける：えほんの杜

・漢検・漢字ファンのための同訓異字語辞典：東京堂書店

・漢字・熟語を使い分ける：小学館

・漢字の大常識：ポプラ社

・漢字のひみつ：学研

・クイズ漢字熟語：あかね書房

・クイズにほん語の大冒険２：教育画劇

・クイズの王様：岩崎書店

・くらべてごらん：イースト・プレス

・この漢字どっちを使うの？同音同訓異字１～３：汐文社

・小学生のための「正しい日本語」トレーニング３：あすなろ書房

・小学生のための表現力アップ教室６：小峰書店

・小学生のまんが漢字辞典：学研教育出版

・楽しく遊ぶ学ぶこくごの図鑑：小学館

・ちびまる子ちゃんの似たもの漢字使い分け教室：集英社

・てんぐ、はなをかむ。：国土社

・同音同訓異義語・反対語：偕成社

・脳トレ！パッとブック１：教育画劇

・広がる！漢字の世界３：光村教育図書

・ビミョ～な日本語：スリーエーネットワーク

・まんがで学ぶ漢字あそび：国土社

・まんがで学ぶ同音語：国土社